

レギュラトリーサイエンス新技術開発事業

【141（176）百万円】

対策のポイント

安全な農畜水産物の安定供給に資するよう、食品安全、動物衛生及び植物防疫に関する施策の決定に必要な科学的根拠を得るための試験研究を実施します。

<背景／課題>

- ・安全な農畜水産物を安定的に供給していくためには、科学的根拠に基づき、国際的な取組を参考としつつ、食品安全、動物衛生及び植物防疫に関する施策を推進することが必要です。
- ・「食料・農業・農村基本計画」においても、生産から消費に至るフードチェーン全体にわたって食品の安全性を向上させるための技術開発を推進することとされています。

政策目標

食品中の危害要因、動物疾病及び植物病虫害について、現場において活用可能な危害要因の分析手法やリスク低減技術等を開発し、これら危害要因を未然に防止することによって、食品の安全性の向上及び食料の安定供給を図る。

<主な内容>

行政措置を講じる必要がある食品中の危害要因、動物疾病及び植物病虫害について、レギュラトリーサイエンス（科学的知見と規制や行政措置の橋渡しをする科学）に係る試験研究の推進により、現場において活用できる食品中の危害要因の分析法やリスク低減技術、動物疾病・植物病虫害の検査法やまん延防止技術の開発等を行います。

研究費：1課題当たり3,000万円以内／年

研究実施期間：原則3年以内

（委託費
委託先：民間団体等）

[お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究推進課

(03-3502-7438)]

レギュラトリーサイエンス新技術開発事業

背景

安全な農畜水産物を安定的に供給していくためには、科学的根拠に基づき、国際的な取組を参考としつつ、食品安全、動物衛生及び植物防疫に関する施策を推進することが必要。

研究内容

行政措置を講じる必要がある食品中の危害要因、動物疾病及び植物病害虫について、レギュラトリーサイエンスに係る試験研究の推進により、現場で活用可能な分析手法やリスク低減技術等を開発。

食品安全

課題例

貝毒リスク管理措置の見直しに向けた研究 等



動物衛生

課題例

高病原性鳥インフルエンザの野生動物による感染の確認及び消毒方法の開発 等



植物防疫

課題例

シミュレーションモデルを活用した無人ヘリコプターのよりきめ細かい散布手法の検討 等



これまでの成果

科学的根拠に基づく行政措置(指針作成等)に活用



【ヨーネ病の遺伝子検査法の確立】
感度・特異性が高い遺伝子検査手法を確立するとともに、ヨーネ病遺伝子診断キットとして実用化。関係法令を改正し、法定検査法として採用。



【食品中の危害要因の低減指針】
アクリルアミドなどの低減技術を確認し、指針に反映。食品関連事業者や生産者など関係者に周知。

安全な農畜水産物の安定供給に貢献